



NASHIM 設立 30 周年記念シンポジウム開催者・参加者の皆様、こんにちは。
私はウクライナのキエフにある国立放射線医学研究センター、放射線影響治療部門呼吸器科の主任研究員、コンスタンティン・バズィカです。

この研究機関は 1986 年に発生したチェルノブイリ原子力発電所事故後に設立されました。電離放射線被曝の放射線生物学的、医学的、社会的影響の研究、放射線事故に対する訓練と医療体制の組織化、医師やウクライナ市民向けの訓練に従事しています。

今回、NASHIM プログラムへの参加についてご報告できる機会をいただいたことに感謝いたします。



日本には 2010 年 7 月 20 日から 8 月 28 日まで滞在しました。



長崎に滞在し、長崎市や長崎県関係者との会議に参加しました。

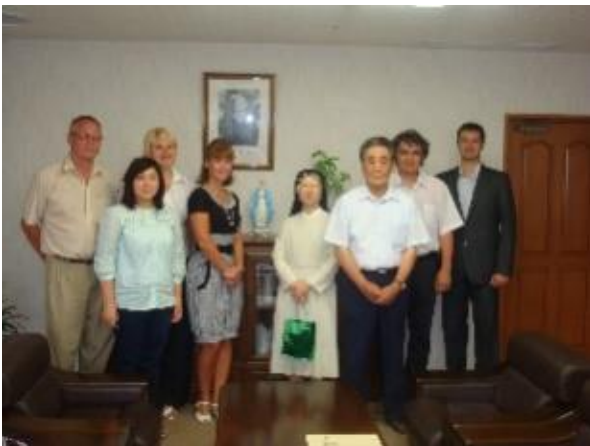
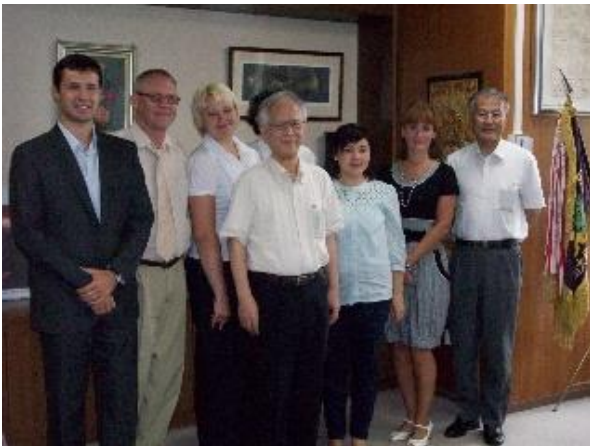


長崎市医師会、日本赤十字社 長崎原爆病院、原爆被爆者特別養護ホーム、長崎市原子爆弾被爆者健康管理センター、放射線影響研究所を訪問し、放射線防護、診断、治療、電離放射線の影響を受けた人々の病気の予防について、日本の同業者の皆様より学びました。

日本の医療システムについても知ることができました。とても良かったのは、長崎の被爆者の方々とお話する機会があったことです。

長崎大学では、日本の歴史と文化、原爆の影響、放射線の人体への影響、日本と世界の放射線防護、医療データの統計処理などについての講義を受けることができました。長崎大学病院の各部署では実習も行いました。

実習期間中は各診療科の業務内容を知ることができ、患者の病歴の検討、電離放射線の影響を受けた人々の治療に関する議論、各診療科の教授による視察、外来診療、最新の診断方法などを学ぶことができました。





2010年8月9日には、長崎の原爆犠牲者を追悼する平和祈念式典に参加しました。

チェルノブイリ事故後、電離放射線の影響を受けた人々の診断と治療を改善するため、また医師や医学生を対象とした講義やセミナーを行う際に、私が行ってきた医療や科学における情報、専門的経験を活用することは非常に有益なことです。



長崎での滞在中は、たくさんの素晴らしい人たちに出会い、日本の思想や伝統、文化を吸収することができました。NASHIMには本当に感謝していますし、この経験は絶対に忘れられないものです。

ありがとうございました。